

## 個人山行報告

# 針ノ木岳・蓮華岳

～四十年前の登山ルートを追って～

藤井 諭

8月26日(金)～28日(日)の間、8名のツアー登山で蓮華岳と針ノ木岳に登り、スバリ岳・赤沢岳・鳴沢岳・岩小屋沢岳と縦走し、柏原新道を扇沢へ下った。私が23歳の年に奥多摩山岳会(OMC)の夏山合宿で先輩にシゴかれながら登ったほろ苦・懐かしのコースだった。

その翌年の冬山合宿で東尾根から蓮華岳に登った。極地法(\*1)により深雪をラッセルして蓮華岳経由で針ノ木岳登頂を目指したが、当時はまだ新人だったので蓮華岳止まりだった。東尾根の森林限界を越えると展望が広がり、遮るもののない美しい稜線が蓮華岳山頂へと続いていた。山頂は真冬の強い風で寒く、早々に下山にかかった記憶がある。

今回は昔の青春に回帰したルートで、改めて元気を貰い満足の行く山行だった。図の太線が今回の登山の軌跡である。東尾根は蓮華岳山頂の右にあり、弧を描いて扇沢へ下っている。



図1 今回の登山の軌跡

初日は6時前に扇沢を出発し針ノ木雪渓に入る。しかし雪が全く見当たらず、岩場とガラ場の高巻きを繰り返すルートで、落石に備えてヘルメットを着用した。晴の天気でもまだ暑く、しっかり汗をかき水分を摂りながらの長い登りだった。全員がんばって10時半に針ノ木峠に到着し、針ノ木小屋に荷物を置いて蓮華岳へ向かった。シンボルのコマクサはまだ咲いていた！縦走路のガラ場の斜面に次々と現れ、写真撮影が忙しい。

イワギキョウ、トウヤクリンドウ、イワカガミなども次々と現われ華やかだ。蓮華岳はボリュームのある山で山頂まで長い。しかし遮るものがなく、北に針ノ木岳から爺ヶ岳の縦走路、西に七倉岳から烏帽子岳の縦走路を眺める大展望が得られる。そして12時半に山頂に立つと、東に東尾根がゆったりと扇沢に下りている。23歳の時の奥OMC冬山合宿で登った懐かしいルートだ。針ノ木小屋に下って落ち着きロビーで休んで

いると、テレビの撮影隊が入ってきた。モデルさんを見るとどこかで見た顔。エッセイスト兼モデルの“華恵”、長身でスタイル良く目の綺麗な女性だ。スタッフに聞くと、NHKの山番組で今日は針ノ木岳に登ったそうだ。明日は針ノ木谷を黒部湖に下る予定だが、雨だと徒渉は危険で判断が難しいとのこと。この日は夜から強い雨となった。

2日目になっても雨は止まず、雨具を着けての出発となった。6時半に針ノ木岳に立ったが、対面する立山・劔岳は雲の中で見えない。七倉岳と船窪岳が雲の合間にかろうじて見えた。次のスバリ岳も雲の中、カッコイイ岩峰であるはずが見えず残念。その下りで雷鳥の親子に出会い、しばらく写真タイムとなった。鳴沢岳を通過する時、この真下に黒部トンネルが走っていることを認識。新越山荘に近づくと、お花畑が広がり青色に混じって白いリンドウが咲いていた。雨中の食事を避けて新越山荘に入り昼食休憩。このコーヒーは本格的なドリップで実に美味しかった。

岩小屋沢岳を越えて歩き続けるとミヤマトリカブトとダイニチアザミのお花畑が広がり、サンショウウオの住む種池が現われ、15時半に種池山荘に着いた。一日中雨の中の山行だった。

3日目はきれいに雨が上がった。種池山荘から爺ヶ岳方向へ5分上がった所に展望所があり、早朝に皆で揃って行った。朝日を浴びて輝く劔岳が大きく、圧巻だった。昨年の遠征で10名が揃ってあの頂上に立ち、喜び合ったことを思い出す。そして東には鹿島槍ヶ岳が実に秀麗だ！西には雲の上に蓮華岳が高く大きく浮かび、2日前に登頂した感激が蘇る。赤い屋根の種池山荘の奥には、立山連峰と針ノ木岳からの稜線が広がっていた。

柏原新道を3時間かけて下り、9時前に扇沢ターミナルにゴールし、無事に山行を終えた。後は大町温泉で風呂に入り祝杯を上げるのみだ。

(\*1) 極地法とは、安全な地点にベースキャンプを設け、そこから連絡のとりやすい距離に次々と前進キャンプを設営して行く方法。隊員はキャンプ地行き来して、必要物資を運搬する。それぞれのキャンプ地の隊員の援助を借りつつ、最終的に少数の隊員が頂上を目指す。ヒマラヤの高峰などに使われている登山法である。

我々は本体とアタック用のテント（当時は重かった）、ラジウス、灯油、食料（当時はフリードライは無かった）の運び上げと前進キャンプの設営を担当した。深い雪はピッケルでかき、膝で固めワカンで蹴り込むも、30kgの荷でズルズル落ちた。この繰り返しだった。



図2 蓮華岳方向から針ノ木岳



図3 雲に浮かぶ蓮華岳（種池より）